

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400142
法人名	社会福祉法人 福寿会
事業所名	グループホーム 日田園
所在地	大分県日田市大字石井字熊ノ下711番地1
自己評価作成日	評価結果市町村受理日 令和2年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和元年11月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人での研修を受けながら職員の資質の向上に力を入れている。小規模多機能と併設しており、交流の機会も増えている。グループホームの広いスペースを利用して小規模多機能と合同で慰問を受け入れるなど、地域との関わりやサービスの提供に努めている。ご利用者同士お互いに声掛けあったり、助け合うなど関係も良好にて笑顔も多い。入居者・職員との関係も良好で冗談を言いあい笑顔や笑い声が多い。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・デイサービスの建物をグループホームに作り替えたため、鉄筋構造で広く落ち着いた造りになっている。小規模多機能型施設が併設されており、特養との連携も取れている。  
 ・家族や地域とのつながりを大切にされた事業所であり、明るく家庭的な雰囲気の中、利用者は穏やかに過ごしている。地域の住民との交流が多く行われている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や家族とのつながりを大切に明く家庭的な雰囲気の中で本人の意思や人格を尊重したケアに取り組んでいる。利用者の望んでいることが何かを追求し生活支援につなげている。	地元企業が母体の為、地域に根差した事業所として立ち上げられた。理念を基に地域・家族とのつながりを大切に、利用者の望んでいる生活を送れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の自治会長や民生委員に参加していただいている。近隣の保育園から運動会への招待を受け交流を行っている。	デイサービスが敷地内にある為、地域交流が盛んに行われている。また公民館で開かれるちびっこサロンや地域保育所に行ったり、学校行事に参加する等、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の取り組みとして認知症研修など地域の方に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者へのケアを行う際に起きたヒヤリ事例など報告し、話し合いやアドバイスをいただいている。	運営推進会議は2か月に1度開催され、行政の担当者・包括・地域の自治会長や民生委員の参加がある。事業所の状況報告・困難事例についての話し合いやアドバイス等会議での意見を活かし、サービスの向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議にて市担当者・包括職員に実情を報告し意見をもらう。	運営推進会議で現状を報告し、アドバイスをもらうなど協力関係が築かれている。また他事業所の取り組みや、介護の情報などを反映し、サービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回以上研修(月1回拘束廃止委員会会議に参加)を受け身体拘束の不要性を学んでいる。玄関の鍵は施錠せず自由に出入りできるようになっている。	身体拘束をしないケアについて、外部研修や伝達研修・委員会の会議、また体験学習などから正しく理解しケアに取り組んでいる。見守りや声掛けなど、気遣いの重要性を認識し日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上研修を受け、毎月高齢者虐待の新聞記事を事例として学び、その度に自己を振り返り日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回研修を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一項ずつ説明し、疑問点など確認しご理解いただき契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに直接要望などを伺う。法人で行う月1回の第三者相談会の案内やご意見箱の設置など、ご家族の意見を反映できるように努めている。	運営に関する家族の意見は、意見箱や面会時に声をかけて家族の要望を聞いている。また第三者相談会を法人で月1回行っており、家族の意見を反映出来るよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングで業務などに関する課題などを話し合っている。	職員の意見は毎月の職員ミーティングで話し合い、それらの意見を反映し、問題点の解決・業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績を把握し賞与に反映する。また、評価に応じてキャリアアップする仕組みを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間24回以上の研修会を実施している。法人内の多職種等の研修を受け連携も深める。その他実務者研修の通信教育や喀痰吸引研修も法人内で受講できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と協議会を作り、管理者は2月1回情報交換、研修会や交流会でサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅への外泊・外出、その他入居者・ご家族からの要望などへは柔軟に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して家族の心情を思い、より良い生活ができるように協力していただき支援に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の主訴を聞き取り曖昧な場合、焦点化し品等に臨むものを理解するように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	強要することなく本人が「やりたい」「できる」と思い実行することで一緒に生活する環境づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や友人と一緒に過ごす時間・環境づくりに取り組んでいる。年間の行事のお誘いも行う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月法人の新聞を配布している。馴染みの人の面会も積極的に受け入れる。	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、祭りや放生会など個別で外出をしたり、法人の新聞を配布したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重している。 苦情が聞かれる行動に対応しお互い良好な関係が築かれるよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡を取り、また家族からの相談にも対応する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り入居者の意向に沿えるように努めている。施設で対応できない場合にはご家族に協力していただいている。	一人ひとりの思いや意向について、特に身体面を主に日頃の言動や家族から聞くことで把握に努めている。また困難な場合も本人本位に検討している。24時間シートを利用し記録し共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から話を伺ったり、家族から伺ったりしてこれまでの生活の様子などから、馴染みの暮らし方につかづけられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態を把握し、共有することで入居者が残存機能を維持できる様取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状把握に努めるとともに職員全員でケアの在り方について意見を出してご利用者にあった計画作成を行う。	利用者本人がより良く暮らせるよう、モニタリングし本人の言動についての報告を受けて家族や職員で話し合い、現状に即した介護計画をチームで作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・食事・水分摂取量・バイタル・介護経過など一覧で記録し、情報の共有に努めている。 24時間介護経過シートを使用しており1日の状態を把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間や外出時間などは家族の希望に合わせる。そのほかの支援については家族と事業所の実情を踏まえながら、できることは多機能化に取り組みたいと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや行事に参加する。また、併設する小規模多機能との交流なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関わりは途切れることなく受診することになっている。必要な時にはかかりつけ医に相談し、より専門的な病院への受診するようにしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診出来るよう支援している。また日常の健康管理を在職の看護師が行い、かかりつけ医や専門医から適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常や変化に気付いた時には看護師や管理者へ相談・報告し必要な場合かかりつけ医や専門医へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は事業所内での様子を伝え、入院中の変化などを伝えてもらうことで退院後、スムーズに日常生活へ移れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、グループホームでの対応に限りがあることを入居の段階でご家族に伝え、以後の受け入れ先として特養への入所を考えていただくようにしている。入居時に重度化や終末期の在り方について説明している。	重度化や終末期のあり方について、入居の段階で事業所で出来ること・出来ないことの説明を行い、重度化した場合の転所などについても早い段階で話し合っている。病院や特養と連携が取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や事故発生時への対応の確認を行っている。マニュアルを作成し適切な対応に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。防災研修を必ず実施している。	年に2回小規模多機能施設と合同で防災訓練を行っている。火災・夜間などを想定して避難訓練を実施している。また建物は鉄筋で防災シャッターもありハード面では安心感があり、備蓄もある。職員は防災に関する研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーへの配慮する声掛けを行い対応している。思いを尊重できるよう心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないよう言葉かけに配慮している。利用者が不快な思いをしないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうすればいいかわからない」という言葉が聞かれる場合、こちら側から選択肢を提示し、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りその日の心身の状態に合わせて1日を過ごせるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみができるよう鏡やブラシを用意している。可能な限り入居前の行きつけの美容室などへの利用をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一括して調理し、搬入してもらっている。冷たいものや温かいものを適温で配膳できるように、用意することを心掛ける。1ヶ月に1週間の誕生日・行事食の提供、土曜日の朝はパン食を提供。	食事は母体の特養で調理され搬入している。クリスマスや敬老の日などの行事食や赤飯やパン食など、食事が楽しみになる工夫がされており、職員も一緒に会話をしながら、和やかに食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録を行っている。食事形態の変更・水分摂取時のとりみ付など一人ひとりの状態によって対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行ない入居者へ口腔ケアを促している。自歯や義歯の磨き直しなど必要なケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認し、時間をみて誘導。入居者からのサインなどを見極めて訴えのない方への誘導を支援している。	排泄のパターンや習慣を活かして、声掛け誘導をしている。自分の意思でトイレに行く利用者も多く、自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認、便の状態の確認。必要に応じて内服薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間を決めて実施。希望しない場合に変更は可能である。 浴室は入居者がくつろいで入浴できる様、整備に努めている。	週に3度の入浴を基本に支援している。浴槽は滑らないように工夫がされており、浴室も寒くないようヒーターで温めたり、シャワー温水を入浴前に出したりして入浴をゆっくり楽しんでもらえるよう準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日のうちできる限りの離床を促し活動している。起床や就寝時間は一人ひとりの希望にて対応している。訴えのない入居者へは様子を見て誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の仕分けは看護師がおこない、毎食時のセットは介護職員が行っている。変更や追加などはその都度情報の共有し、状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやフロアの雑巾がけ、食事用盆拭きなど、それぞれの身体状態に合わせて役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在、個別の外出支援には限りがあるため、家族の力を借りている。日々の生活の中での一言から家族へ伝えたり、希望の場所へ出かけられるように計画を立てるようしている。	季節の花見や祭り、受診した際の帰りのドライブなどが行われている。また家族の協力のもと、個別の外出など、希望する場所へ出かけられるよう支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金は持たせておらず、職員側でご家族から預かって必要なものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅への電話希望の入居者への支援、手紙を書く際に切手の購入や投函などを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ができるように時期に合わせて装飾など工夫している。夏は午後から西日がいこともあり今夏より葦簀を設置した。入居者より涼しげでいいですねと好感触である。	季節の感じられる飾り付けがされた共用空間で、利用者は和やかに過ごしている。仲の良い利用者同士が、日中食卓で過ごしている。小規模多機能利用者とも一緒に過ごしている。自然光の入る清潔な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間の中で好きなところで過ごしていただくようにしている。食事の席についてはお互いに声掛けができ配慮いただける配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から整理しやすい様タンスを持ち込んで入居者やテレビ・ラジオなど持ち込み自分の時間をすごせる事ができている入居者もいる。入居時にはできるだけ使い慣れた物を持参いただけるように家族に伝えるようにしている。	使い慣れた物を持ち込んでもらい、利用者それぞれが居心地の良い居室になるよう工夫している。居室での安全を保つため、ベッドを低くしたりセンサーマットを使用したり、転倒を予防する工夫もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間の居室でのポータブル使用やトイレ誘導など身体状態に合わせて行っている。転倒の恐れがある入居者にはベッド低床にしたり、センサーマットと使用しナースコールが使用できない方についてはセンサーマットを使用し転倒予防する		